

I C T 授業活用教育実践

対 象	特別支援 中学部1年
教科・科目	美術
単 元	ものをみつめる，こころひかれる風景
ねらい	タブレット端末を使い，自分の気に入ったモチーフや風景の写真を撮り，考えを表現する。 友達の作品からモチーフや形や色彩，構図などのよいところを発表する。
I C T 環境 (授業で使った機器)	iPad
利用したデジタル教材 (アプリ，サイトのアドレス，資料など)	カメラアプリ (iPad 標準) 写真アプリ (iPad 標準) Air Drop
授業での I C T の活用方法 と手順	<ol style="list-style-type: none"> ① 自分の気に入ったモチーフを探し，カメラアプリで写真を撮影する。 ② 写真アプリを使用し，気に入った写真を決める。 ③ 生徒から教師の iPad に Air Drop で写真を送る。 ④ 教師から生徒の iPad に生徒の一人ずつの写真を送り，撮影者の発表と，撮影者以外が友達の写真のよいところの発表を行う。
授業の工夫 (ポイント)	<p>写真を撮影し，拡大してみることで，普段の風景を一步立ち止まり細部まで見る。</p> <p>Air Drop を使用し，「今」撮影した写真を共有する。</p> <p>iPad を使用し，手元で拡大写真を見る。</p> <p>自分の作品を説明することや，友達の作品のよいところを分析して発表することで，自分の意見や考えを表現することや，他人の意見を聞き，相互理解の気持ちを養う。</p>
生徒の様子	<p>教室内を自由に移動し，写真撮影を楽しんでいた。</p> <p>弱視生徒は，天井や壁など，遠くて見えにくいものを撮影した。拡大して見ることで，新鮮な発見をしていた。</p> <p>友達から自分の作品のよい点を聞くことで，自分の作品の新しい一面に気付くことができた。</p>

実践例

配当時間		学習の進め方	指導のポイント
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の授業内容の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の注意点3点を伝える。 ①自分で撮影した写真から気に入ったものを選び、理由を考え発表すること。 ②友達作品のよいところを見つけて発表すること。 ③個人情報（顔や名前等）が写らないように撮影の際に注意すること。
展開	40分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真撮影を知る。 ・ 写真撮影をする。 ・ 自分の気に入った写真を決めて、理由を考え、スケッチブックに記入する。 ・ 撮影者が気に入った写真を発表する。 ・ 友達作品のよいところや感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ モチーフ選び、配置、構図、撮影角度、色彩等の工夫点を伝える。 ・ 撮影するときは、写真全体を確認することや、面白いと思ったものをどう伝えるか考えて撮影する。 ・ 全員の記入が終わったら、Air Drop で画像を教師に転送させる。 ・ 友達作品のよいところを発表する際には、教師が質問し工夫点、何に心が動いたか、何を思っていたか、どうしてそのような感想をもったかを考えさせる。
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体を振り返り、感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の作品発表や、友達作品のよいところを発表できたか確認する。

評価

生徒について	生徒の興味・関心	手元で、画像を拡大して確認できることにより、撮影時や友達作品鑑賞をスムーズに行うことができた。
	生徒の理解	カメラの拡大機能等を上手に使いこなすまでには至らなかったが、写真を拡大しふだん見えていないものを見る体験をすることができた。構図の工夫等が課題として残った。
	生徒の情報機器の活用度	全員が iPad を使用して授業を行った。しかし、基本的な使い方に慣れておらず、操作に時間がかかった。
授業について	事前準備の難易度	特に難しくない。
	指導者にとっての授業展開の難易度	モチーフになる被写体の準備や、生徒同士の発言が活発になるような支援、発問が必要である。
	授業の「ねらい」の設定は適切であったか	生徒は、自分の気に入った写真を撮ることができた。また、自分の作品の紹介や友達作品のよいところなどを発表することができた。
	効果的な指導方法であったか	工夫して写真を撮ることが難しかったようである。自分の作品の紹介、友達作品のよいところを探す言語活動という点では、効果的であると感じた。他の生徒からよい面を言ってもらうことで自信をもつことができた。

<実践の感想及び反省点等>

写真の扱い方や個人情報を含まない写真を撮影することをきちんと説明することが必要である。

iPad をふだんから使用し、補助具として活用できるように継続的な指導が必要である。

構図の工夫や色彩、テーマ選びのおもしろさの分かる参考作品で、生徒の創作意欲を高めることも必要だと思った。

iPad の画面が、どの程度見えているのかをきちんと把握して実施する必要がある。また、iPad のアクセシビリティを使って、見やすい画面の設定を生徒ができるとうい。